

事業所名

クオリティ・オブ・ライフいわむらだ支援教室

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

令和8年

4月

15日

法人（事業所）理念		理念：感覚統合を土台とした地域密着型支援～「運動・就労・地域」の3本の柱の独自のカリキュラムで支援を行う。					
支援方針		佐久支援教室では、日常生活における基本的マナーである「あいさつ」「身辺自立」「学習支援」等の生活の質の向上を目指した支援だけでなく、子どもたちの「選択の幅、体験差をなくしていただけるように」①運動療育(バスケ、サッカー)、②就労支援(農作業、畜産体験)、③積極的な郊外学習の3つを柱とした独自のカリキュラムを行っていく。					
営業時間		14時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康・生活：体幹鍛錬による姿勢保持（学習の土台作り）。触覚過敏に配慮したADL（日常生活動作）支援を行います。					
	運動・感覚	認知・行動：スポーツでの瞬時の状況判断、農作業を通じた工程理解、視覚提示による行動の構造化。スポーツにおける攻守の切り替えや戦略判断、農作業を通じた食物の成長過程の学習により、認知機能と計画的な行動力を育てます。					
	認知・行動	言語・コミュニケーション：感覚ニーズ（快・不快）の言語化。チームスポーツでの声掛けやサポート、地域住民との交流を通じて、集団適応力や他者と意思疎通を図る力を身につけます。自分の意思を伝え、相手の意図を理解する力を育てる。					
	言語 コミュニケーション	人間関係・社会性：チームプレイによる「利他の精神」と協調性の育成。パーソナルスペースの理解。「利他の精神（味方のために）」を重視したチームプレイや、就労体験、地域イベントへの参加により、社会の一員としての自覚と協調性を育みます					
	人間関係 社会性	人間関係・社会性：チームプレイによる「利他の精神」と協調性の育成。パーソナルスペースの理解。「利他の精神（味方のために）」を重視したチームプレイや、就労体験、地域イベントへの参加により、社会の一員としての自覚と協調性を育みます。					
家族支援		家族支援：感覚統合の視点からお子様の特性を分析・共有し、家庭での好循環をサポート。発表会等による成長の可視化を行う。			移行支援		地域社会への参加を通じて、同年代の子どもを含む地域の仲間づくりができるよう、地域イベントや学校の課外活動への積極的な参加を促進します。地域・学校とも連携しながら、子どもの社会性やコミュニケーションスキルの向上を支援し、仲間づくりの進捗を定期的に確認し、継続的なサポートを行う。
地域支援・地域連携		地元企業・伝統産業との連携による「開かれた施設」の運営。地域全体で障害児を支える環境構築を行う。			職員の質の向上		業務スキルや専門知識を向上させるため社内研修・外部研修を取り入れていく。また実際の業務を通じて学ぶ機会を提供し、実践的なスキルを磨いていく。働きやすい環境を整えていく。
主な行事等		コーチによるサッカー・ミニバスケットの指導、栽培などの農耕体験と継続、佐久市の伝統工芸の体験と工芸の習得、地域資源活用による体験、地域の伝統行事への参加など					